

そう だい
総題 「ヨハネの黙示録」

だい か さば
第12課 バビロンへの裁き

しばた ひろし
柴田 寛

あんそくにち ご
1. 安息日午後

こんしゅう ほろ お まな
今週は、バビロンがどのように滅ぼされ、終わりをむかえるか、について学びます。

いんぶ にち
2. 淫婦バビロン (日)

せいしよ なか おんな かみ たみ きょうかい しょうちょう あらわ いんぶ べつ
聖書の中で「女」は「神の民」(教会)の象徴(を表す)ですが、「淫婦」は別です。

いんぶ ふひんこう よ だんじょかんけい おこな ふどうとく しゃかい なか まも わる
淫婦とは、不品行(良くない男女関係)を行い、不道德(社会の中でルールを守らないで悪いことをすること)

へと 誘う「偽りの教会」をあらわし、この淫婦こそが「バビロン」です。

いんぶ ちじょう おう おお こくみん まど
この淫婦バビロンによって「地上の王たち」と「多くの国民」が惑わされてしまいます。

あか けもの いんぶ けもの しょうたい げつ すい
3. 赤い獣にまがっている淫婦・・・とその獣の正体(月)～(水)

もくしろく あか けもの いんぶ とうじょう なに いみ
黙示録17:3には、赤い獣にまたがった淫婦が登場しますが、これはいったい何を意味するのでしょうか。

りかい あか けもの とくちょう み ひつよう
それを理解するためには、赤い獣の特徴を見る必要があります。

あか ち う
まず、赤は「血に飢えている」ことをあらわし、

あたま とうじょう じゅんばん
7つの頭は「登場の順番」、

ほん つの せいりよく ちからづよ はんい
10本の角はその勢力の「力強さや範囲」

をあらわします。

れきしてき み あ ていこく
歴史的に見て、これにピッタリ当てはまるのは、ローマ帝国です。

とくちょう つづ
しかし、その特徴はさらに続きます。

むかし いま そこし ところ のぼ
「昔はいたが、今はおらず、そして、やがて底知れぬ所から上ってきて」(17:8)。

さらには、「すなわち第八のものであるが、またそれは、かの七人の中のひとりであって」(17:11)・・・

いんぶ しはい
しかもこれに淫婦がまたがって(支配して)いる。

ていこく ふっかつ せいじてきせいりよく も しゅうきょうせいりよく けつろんづ
つまりこれは、ローマ帝国から復活した、「政治的勢力を持った宗教勢力」である、と結論付けることができます。

さば もく けんきゅう きん
4. バビロンの裁き(木)～さらなる研究(金)

じょうき おそ けもの み お ひと とくちょう
上記のあやしく恐ろしい獣について、見落としてはならないもう一つの特徴があります。

それは、「しばらくの間だけおることになっている」(17:10) ということ。

つまり「短命」である、ということです。黙示録17:16によれば、この獣が突如、淫婦を憎み、裸にし、火で焼くと預言されています。

この理由についてテキストは次のように記しています。「惑わされた政治的勢力はがっかりします。なぜなら、バビロンが彼らを災いから守れないからです。彼らはだまされたと感じ、敵意に満ちてバビロンを攻撃します。」

(テキスト 86 ページ)

わたしたち まど はな ひつよう
私達は、このような惑わしのバビロンから離れる必要があります。

また、そこにとどまっている人々を離れさせなければなりません。

なぜなら裁きの時が迫っているからです。改めて、アドベンチストが何のために起こされ、立てられたのかを考えてみたいと思います。